



東大寺周辺ルートマップ



1 大仏殿(だいぶつでん)

国宝建造物。創建から2度にわたって焼失、鎌倉と江戸時代に再建された。世界最大級の木造建築である。平成24年に大仏殿内、廻廊、霊名所、授与所の照明装置を全てLED化。



2 二月堂(にがつどう)

国宝建造物。旧暦2月に「お水取り(修二会)」が行われることからこの名がある。寛文7年(1667年)、お水取りの最中に失火で焼失し、2年後に再建されたのが現在の建物。



3 俊乗堂(しゅんじょうどう)

元禄年間、公慶上人(こうけいしょうにん)が重源上人(ちょうげんしょうにん)の遺徳を讃えて建立。堂内中央に国宝「重源上人坐像」が安置されている。



4 行基堂(ぎょうきどう)

東大寺大仏の造立に大きな役割を果たした、奈良時代の僧「行基」をまつる。



5 大鐘(おおがね)

大鐘は天平勝宝4年(752年)に鑄造されたといわれている。大きな釣鐘であるところから古来東大寺では大鐘(おおがね)と呼ぶ。鐘楼は、国宝建造物。



6 辛国神社(からくにじんじゃ)

東大寺創建時、様々な障害を加える多くの天狗たちを良弁僧正が改心させ、仏法護持を誓約させてまつったといわれている。



7 南大門

国宝建造物。天平創建時の門は平安時代に大風で倒壊。現在の門は鎌倉時代、東大寺を復興した重源上人(ちょうげんしょうにん)が再建したもの。大仏殿にふさわしい、わが国最大の山門である。 ※参照:東大寺公式ホームページ他



8 法華堂(ほっけどう)(三月堂)

国宝建造物。東大寺建築のなかで最も古く、寺伝では東大寺創建以前にあった金鍾寺(きんしょうじ)の遺構とされる。旧暦3月に法華会(ほっけえ)が行われるようになり、法華堂、また三月堂ともよばれるようになった。



9 南向山八幡宮(たむけやまはちまんぐう)

南向山の山麓にあり天平勝宝元年(749)東大寺大仏建立のため、九州豊前国(大分県)宇佐八幡宮より東大寺守護の神としてむかえ、まつられた。紅葉の名所として知られている。



10 興福寺 菩提院大御堂(こうふくじ ぼだいいんおおみどう)

現存する興福寺の子院の一つ。歴史は古く、法相宗を中国から伝えた玄奘(げんぼう)や、平安時代の学僧である蔵俊が住んでいたと言われている。稚児観音(ちごかんのん)や十三鐘(じゅうさんかね)、三作石子詰(さんさくいしづめ)の伝承で知られている。

